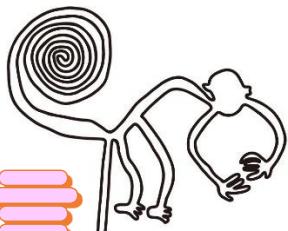


Perú リマ通信



第1号 2019年11月
リマ日本人学校 長屋 裕美

リマの生活

ペルーのリマに来て7ヶ月が経ちました。あっという間です。渡航前は、『人前で携帯電話を出すな』『強盗に出くわしたら渡す命金の用意を』などの不安を搔き立てる安全(危険?)情報ばかりが提供されていましたが、今のところ命もお金も奪われていません。近所の公園で子どもと遊んだり、歩いて買い物に行ったりしています。飲み会にも行きます。もちろん危ないとされるところには行かないという意識は持っています。よく『ペルーは高地だよね』と聞かれますが、首都のリマは低地なので酸素はたっぷりあります。というわけで、毎日元気に暮らしています。

日本とペルーの歴史



今年は日本人がペルーに移住して120周年の年です。1899年に799人の日本人が農業契約移民としてペルーにやってきました。移住者は苦労を重ねながらもペルー社会と融合し、今では3世、4世に日本の文化や言葉が受け継がれています。1世の方にお会いする機会もありましたが、とてもお元気です。

移民120周年を記念して作られたロゴマークでは、日本とペルーの国旗の色である赤と白を基調に、日本からペルーが花開く様子が描かれ、120年に及ぶ両国の友好関係とそれを支える日系人の存在が表現されています。

私もペルーに住む日本人の1人として、日系社会やペルー社会についてしっかり学んでいきたいです！

ペルーのおいしいもの

ペルーにはおいしいフルーツがどっさり、しかも年中いつでも手に入れます。大きなマンゴーがスーパーで100円位です。日本ではお目にかかれないフルーツもあります。写真はカエルのたまごにしか見えませんが、おいしいフルーツです。『グラナディーヤ』といいます。半分に割ってからスプーンですくって種もボリボリ食べます。お肌に良い栄養もたっぷり入っているとか。毎日おいしいフルーツを食べているからか、赴任してから一度も体調を崩していません。



駐夫からの一言

配偶者同行休業制度を使ってペルーに来た夫からのメッセージ

道立高校在職中に制度を利用して専業主夫をしています。初の海外生活そのものよりも、家事の方が不慣れな気すらしますが、週3回来てくれるお手伝いさんの力を借りて、なんとかなっています。日本では共働きなのに、家事と子育てをほとんどしていなかったため、大変さと妻のありがたさを今更ながら痛感しています。目下の楽しみは、家族と過ごす時間と、市場で安く新鮮な食材を探すことです。今後、駐夫の生活を紹介したいと思います。